

平成 29 年度 第 3 回総合教育会議（平成 30 年 2 月 20 日開催）において、協議事項として提案された項目

① 小中学校の単学級について

- 小中学校のあり方検討委員会から提出された提言書において、子どもの人数が減っていく中、単学級になることも示されている。提言を受けて今後どうするかについては、今のうちから考えていかなければいけないと思う。

② 外国籍の子どもたちの支援について

- 外国籍の子どもたちが増えていて、その支援に苦慮しているという事例を耳にする。日本の文化がわからない子どもたちは本当に大変だと思うと、もう少し支援をする方法はないかと考える。諸外国の事情に長けている人が地域にはいるので、地域も巻き込んだ対応策が必要である。この課題を解決していかないと日本の子どもたちの学習も影響を受けると学校を訪問すると感じる。

③ 空き教室の利用について

- 学校が地域の役割が混然一体となっていて、学校に求められているものがすごく多く、広がっているような感じを受ける。児童生徒数の減少により空き教室が生まれるが、そこに地域が利用できる仕組みを作り、先生たちがやらなければならないこと、地域が出来ることを役割分散しなければ、先生たちの負担が増える一方な状態だと思う。今すぐにどうこうする計画ということではないが、これから考えていかなければいけない問題ではないのかと思う。

④ 学校を核とした地域コミュニティの再構築について

- 家が学校の前で学校に親しみを持っているが、校舎に入ることはない。子どもが卒業すると学校と関係がなくなる人が結構多く、学校と地域の交流がもっとできれば良いと常々思っている。例えば、空き教室があれば、安全面に配慮した上で、空き教室を地域の人たちが学習の場や居場所・安らぎの場として活用して、学校を核とした地域コミュニティの再構築に貢献できれば良いのではないだろうか。退職して時間がある人はいるので、知恵を出し合って学校から地域、地域から学校に情報発信をして、もっと関係が密になればと感じている。

⑤ 小中一貫した地域スポーツへの移行について

- 教職員の多忙化、子どもの減少により中学校の部活が減少していくが、子どもにスポーツをやる機会は作ってあげたい。しかし、多くのスポーツの機会を作るのには 1 つの中学校では限界が来ていると思うので、市や地域として、色々な部活を用意し、小中一貫した地域スポーツに今後移行していくのかなと思っている。スポーツ振興と中学校の部活をつなげた話をどこかで聞かせてもらえれば今後の部活を考える参考となる。